

ふたたびさん
明治36年 再度山で始まった植林工事の様子



(神戸市森林整備事務所蔵)

はげ山の斜面を階段状に切りつけ、積苗工を施工し、主にマツとヤシャブシを植栽した。大正4年までの13年間で、1,073ha(甲子園球場約280個)もの斜面に対し、森林への復旧工事を実施した。

明治41年 植林5年後の再度山の様子 ふたたびさん



(神戸市森林整備事務所蔵)

水平に積苗工を施工することで、表面土砂を固定し、保水力が高まる。植栽木が良好に生長している様子がわかる。この再度山の植林は、明治神宮の森や日比谷公園を設計した東京帝国大学の林学者本多静六が深く関わっている。この写真も本多静六の指導で、植林の記録として撮影されたと考えられる。

明治35年 リチャード・ゴードン・スミスが見た再度山のはげ山の様子 ^{ふたたびさん}



(大阪青山歴史文学博物館所蔵)

The back of Futatabi Mountain, on the Arima road.

写真の右側の斜面に筋状に見えるのが、明治35年に神戸市が試験的に行った植林(積苗工)施工地と思われる。

R・G・スミスは主に神戸を拠点に全国を旅行し、多数の日記を残している。大英博物館の標本収集も行っており、スミスネズミの採集者としても有名。

令和元年 8 月 森林に復旧した再度山



水源の質と量の確保のため、治山砂防を目的として、森林造成のための植林事業が明治35年（1903年）から始まり、3ヶ年で約600haの区域の植栽がなされされました。修法が原池から対岸の再度山の北斜面です。

林業遺産「再度山の植林と関連資料」

2020年5月27日に「再度山の植林と関連
事資料」が、林業遺産として認定されました。

林業遺産とは、（一社）日本森林学会が2013年度から「林業遺産」選定事業を開始し、日本各地の林業の発展と歴史を将来にわたって記憶・記録していくため、林業発展の歴史を示す景観、施設、跡地等、土地に結びついたものを中心に、技術や道具類、古文書等の資料を林業遺産と認定しています。

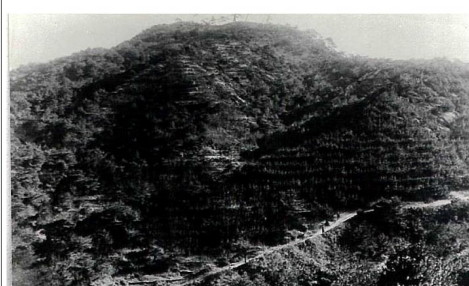
2018年までに吉野林業(奈良県)をはじめ、全国で35箇所が認定されており、県内では「猪名川上流域の里山」（川西市黒川）に引き続く2例目となります。



再度山の植林と森林の再生

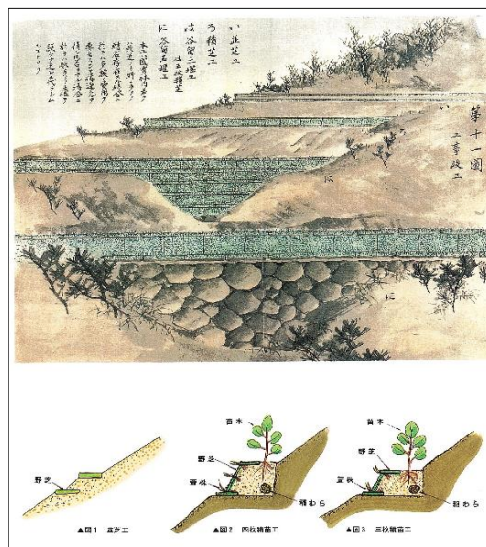


植林後 1年目

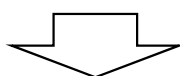


植林後 5年目

明治35年～40年頃の植林



明治35年頃の植林工法

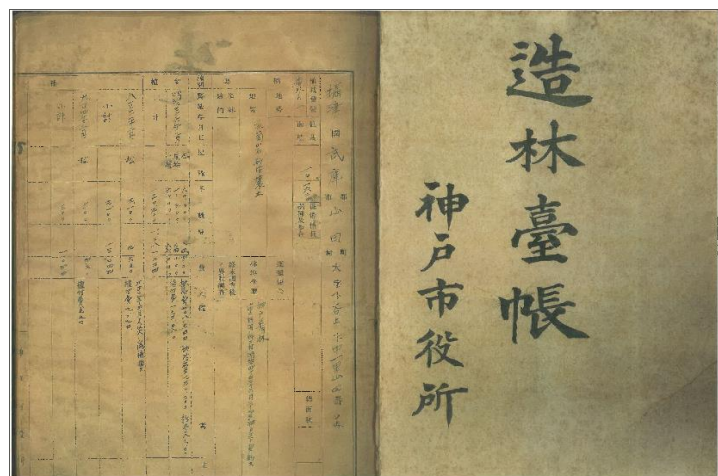
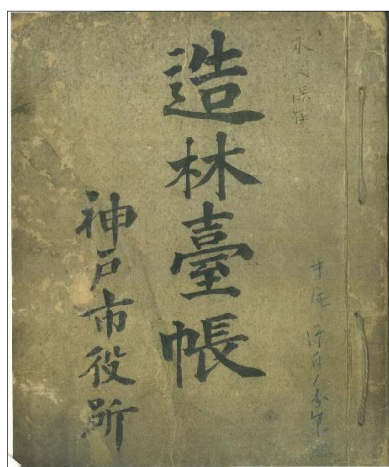


令和元年の再度山

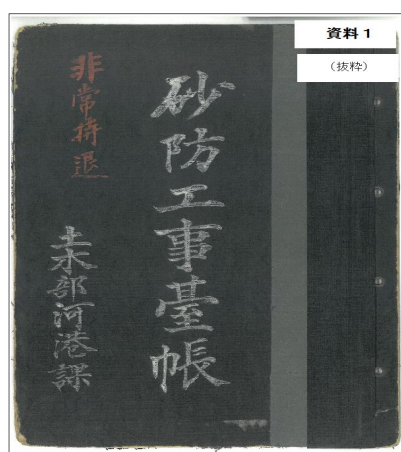


再度山内の石積み遺構

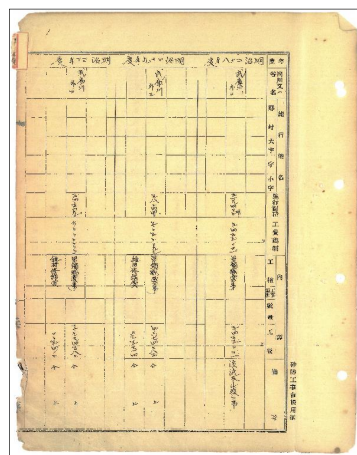
資料群(造林・工事台帳ほか)



造林台帳（神戸市）



資料 1
(抜粋)



砂防工事台帳（県砂防課）



再度山の植林写真